

宿内案内

観音堂のモミジ



絵天井が見られます



神明神社の大杉とイチョウ



問屋場のモミジ



中山道大湫宿(大久手宿)

湫と久手とは、土地が湿地・沼地の意味。中世以降、その土地を水田化してきて、現在の裏田がある

神明の大杉



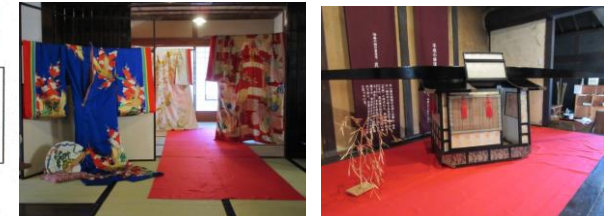
樹齢 1300年
幹回 11m、
直径 3.2m
樹高 60m
(現在、40m)

落雷によって樹勢が弱くなってきたため、保存事業が行われた

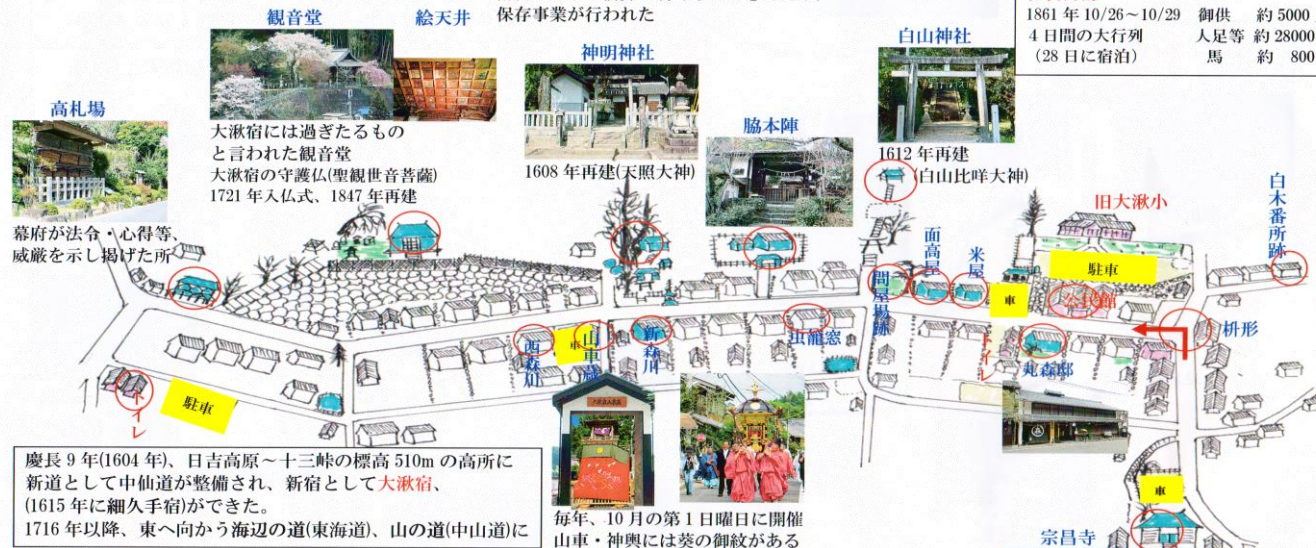
脇本陣 (19 部屋、153 畳) 本陣 (23 部屋 212 畳)

中仙道の整備によって、1604年に大湫宿が正式に開設され、保々氏が本陣・脇本陣・問屋場を任せられる。御公用継立てにより公脚・幕使・大名などの宿泊所となる
現在、本陣は無く、旧大湫小学校の校庭となっている

丸森邸の内掛け・駕籠の展示



侍女とのスナップも



慶長9年(1604年)、日吉高原～十三峠の標高510mの高所に新道として中仙道が整備され、新宿として大湫宿、(1615年に細久手宿)ができた。
1716年以降、東へ向かう海辺の道(東海道)、山の道(中山道)に

虫籠窓



弓形



枡形



和宮降嫁

1861年10/26～10/29 御供 約5000人
4日間の大行列 人足等 約28000人
(28日に宿泊) 馬 約800頭

白山神社



1612年再建
白山比咩大神

旧大湫小



宗昌寺



保々宗昌が建立、保々氏の菩提寺
(本尊は釈迦如来)

お休み処・鮎も営業

